ISSN　1881-5251

埼玉県立自然の博物館 ニュースレター

彩の国 埼玉県

澪（とろ）

■共催展のこれまでとこれから…… 2
■北上するシダ植物…… 4
■共催展「深谷の化石」－化石でたどる海と陸のドラマ－の開催 …… 5
■引越し雑感－資料保存のはなし－…… 6
■今年度の教員研修の実施報告…… 7
■表紙の解説・催し物（３月～６月）のお知らせ…… 8

埼玉県立自然の博物館
SAITAMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY

18
2012. 2

共催展のこれまでとこれから

中　村　修　美

博物館活動には「展示」「教育・普及」「資料収集・整理・保管」「調査研究」の４つの柱があります。それぞれの活動は相互に関連していますが、多くの方は展示の観覧を目的に博物館を訪問されます。現在、埼玉県内では資料を有した自然史系の博物館は当館だけです。当館は、国の名勝天然記念物「長瀞」に隣接し、自然環境に恵まれた場所にありますが、残念なことに必ずしもアクセスしやすい立地ではありません。それもあり、他の博物館等への地質や動植物の標本、画像等の資料の貸出は開館以来行ってきました。それだけではなく、他の博物館等との岩石・化石や動植物など自然をテーマにした共催展も実施してきました。ここでは、共催展の状況を見てみましょう。

昨年度（平成22年度）までに、30回を越える共催展を行ってきました（表１）。1990年に浦和市青少年宇宙科学館（現さいたま市青少年宇宙科学館）との共催展を最初に、少し間を置いて1999年に寄居町にあるさいたま川の博物館と実施しました。共催展は、この時期までは継続して行っている事業ではありませんでした。2001年に羽生市郷土博物館と2回実施してからは、1年にほぼ2，3回の共催展を実施しています。この中には、長野県の清里フォトアートミュージアムと共同で実施した「ヤマネ－森に棲むもの－西村豊写真展」やさいたま川の博物館と実施した「鮎を語るⅠ」のように、当館を会場として実施したものもあります。しかし、多くは県内の博物館を会場に実施したものです。

表１を見ていただくと、共催展を実施してきたのはある程度決まった博物館であることが分かります。これは、実施した共催展の評判良くて、継続的に実施されてきたことが考えられます。例えば、2001年の夏季に実施した羽生市立郷土博物

表１．平成22年度までに実施した共催展

No.	年度	期間	開催地（共催機関）	タイトル
1	1990(H2)	8.5 ～ 10.10	浦和市青少年宇宙科学館	共催特別展「埼玉の化石」
2	1999(H11)	7.17 ～ 8.31	さいたま川の博物館	特別展「鮎を語るI」
3	2001(H13)	7.28 ～ 8.27	羽生市立郷土博物館	山の動物・里の動物 Part1
4	2001(H13)	9.24 ～ 10.14	羽生市立郷土博物館	山の動物・里の動物 Part2
5	2002(H14)	7.20 ～ 8.30	熊谷市立図書館	平成14年度自然科学展－埼玉の自然
6	2002(H14)	7.27 ～ 9.1	朝霞市博物館	埼玉の化石展
7	2002(H14)	10.8 ～ 12.8	清里フォトアートミュージアム	ヤマネ－森の棲むもの－西村豊写真展
8	2003(H15)	7.26 ～ 9.7	羽生市立郷土博物館	奥秩父の自然
9	2003(H15)	7.19 ～ 8.31	熊谷市立図書館	第24回自然科学展－鳥と語ろう・野鳥たちの科学館－
10	2003(H15)	7.12 ～ 8.31	朝霞市博物館	石と遊ぼう！埼玉の岩石と鉱物
11	2004(H16)	7.17 ～ 8.31	さいたま川の博物館・NPO法人むさしの里山研究会	連携企画展「水辺の昆虫－トンボ－」
12	2004(H16)	7.31 ～ 9.12	羽生市立郷土博物館	里山の自然－農耕の変化と共に歩んだ雑木林の自然－
13	2004(H16)	7.24 ～ 9.5	朝霞市博物館	みつめてみよう！みどりのなかまたち　埼玉の希少野生植物
14	2004(H16)	7.10 ～ 8.26	朝霞市博物館	ギャラリー展「身近な生き物」
15	2004(H16)	8.1 ～ 9.5	戸田市立郷土博物館	楽しい石の世界
16	2005(H17)	3.18 ～ 3.31	さいたま川の博物館	水辺の宝石－カワセミ－
17	2006(H18)	4.1 ～ 6.18	埼玉県立川の博物館	水辺の宝石－カワセミ－
18	2006(H18)	7.23 ～ 9.3	埼玉県立川の博物館	巨大昆虫の世界～ようこそトロピカルワールドへ～
19	2006(H18)	10.7 ～ 12.19	狭山市立博物館	かせき・ＫＡＳＥＫＩ・化石　埼玉の古生物
20	2007(H19)	4.1 ～ 5.27	埼玉県立川の博物館	山地の動物
21	2007(H19)	5.29 ～ 11.4	埼玉県立川の博物館	山地の地質
22	2007(H19)	11.6 ～ 3.30	埼玉県立川の博物館	台地・丘陵の植物
23	2007(H19)	7.21 ～ 9.2	埼玉県立川の博物館	よみがえる化石動物～生きた動物たち～
24	2007(H19)	7.28 ～ 9.9	羽生市立郷土博物館	身近な外来生物たち
25	2008(H20)	7.19 ～ 8.31	埼玉県立川の博物館	巨大昆虫の世界　パート２
26	2008(H20)	9.27 ～ 11.16	埼玉県立川の博物館	きのこノート　－森を支える菌の花－
27	2008(H20)	7.19 ～ 8.31	熊谷市立図書館	自然科学展～さいたまに生きる動物展～
28	2009(H21)	7.18 ～ 8.30	熊谷市立図書館	自然科学展～“とぶ”生きものの世界～
29	2009(H21)	7.18 ～ 8.30	朝霞市博物館	石～地球のかけら～
30	2010(H22)	7.17 ～ 8.29	羽生市立郷土博物館	共催展「埼玉の多様な生きもの」
31	2010(H22)	7.17 ～ 8.31	朝霞市博物館	テーマ展示「身近な生きものさがし」
32	2010(H22)	7.17 ～ 10.24	宮代町郷土資料館	みやしろの動物たち～けもの・鳥・昆虫～

表２．平成23年度実施の共催展

期間	開催地（共催機関）	タイトル
7.30 ～ 9.30	おがの化石館	秩父の大地は語る　－地層と化石の物語（ドラマ）－
11.5 ～ 12.4	埼玉県自然学習センター	カエデ＆もみじ
11.26 ～ 1.22	狭山丘陵いきものふれあいの里センター	森の賢者　埼玉のフクロウ展
1.14 ～ 2.19	埼玉県自然学習センター	空からみた埼玉の自然地形
3.3 ～ 3.25	深谷市川本出土文化財管理センター	深谷の化石　－化石でたどる海と陸のドラマ－
3.24 ～ 5.13	三芳町立歴史民俗資料館	武蔵野の雑木林と春の息吹
3.17 ～ 6.10	春日部市立郷土資料館	特定外来動物にご注意

館の共催展は好評をいただき、さらに実施したいとの要望により内容を変更して秋に「パート２」として実施したものですし、今年度おがの化石館（小鹿野町）で実施した展示も好評で期間を延長しました。県内市町立博物館の多くは歴史・民俗が中心ですので、これまで自然系の展示はあまり実施されてこなかったと考えられます。そこで実施した自然系の展示は来館者の興味を引いたのではないかと思います。それが同じ博物館で共催展が継続実施されている理由の一つだろうと思います。また、共催展では単に展示だけではなく、この企画にあわせた観察会や講演会などの普及事業を行うこともあります。これらも影響を与えているのかもしれません。

しかし、一方では、開催している地域が埼玉県全体にまで広がっていっていないとも言えます。共催展ではどうしても、夏休みや秋などの同じ時期に、同じテーマや似たテーマでの希望が重なったりします。使用できる資料の問題もあり、これらを解決するのは難しい面があり、また、共催展を１年に多数開催することは時間的にも難しいものがあります。そのため、限られた資源と時間を有効にできるよう調整をしながら実施してきました。

自然の博物館は建築後30年を経過し、施設の老朽化がみられるようになりました。施設改修のため、昨年９月から今年秋まで休館し、10月６日にリフレッシュオープンします。観察会などのイベントや出張事業、他から依頼された講師の対応などはこれまでと変わらず実施していますが、さすがに展示を見ていただくことはできません。そこで、休館中に多様な展示を計画しました。

例えば、県立の博物館施設（歴史と民俗の博物館、さきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館、近代美術館、文書館）の協力で、小さいながらも自然の博物館紹介のミニ展示を開催しています。この事業は来年度も継続しますし、各県立博物館でイベントも実施します。

それとは別に、市町立博物館や自然関連施設などと共催展を開催しています。すでに終了したものもありますが、合計７回の展示を行います（表２）。今回の共催展では、これまで実施していなかった地域の博物館などで開催するように努めました。そのため、すべての施設、地域が初めての開催となっています。開催テーマもできるだけその地域と関連のあるものを取り上げています。どのように展示されるかは見てのお楽しみです。現在開催中のものもあれば、来年度まで継続して実施するものもあります。関連の普及事業も実施しますので、是非お出でください。また、来年度も、既に夏に共催展を実施することが決定しています。ただし、10月にリフレッシュオープンが待っていますので、今年いっぱいは現在計画されている以上の共催展を実施するのは、大変難しい状況です。

今後も、これまで実施していなかった地域や機関での共催展が開催できないか模索していきたいと思っています。

共催展や関連事業の詳しい情報は、当館ホームページに掲載します。もしかしたら、お近くで開催しているかもしれません。ご確認いただき、是非お出かけください。

（なかむら　おさみ・学芸主幹）

北上するシダ植物

植　田　雅　浩

植物の生育は、環境から大きな影響を受けています。例えば暖かい地域と寒い地域とでは、生育する植物が異なります。降水量の多い地域と極端に少ない地域でも同様です。これらは、それぞれの種の生育可能な条件が異なるからです。

最近は地球温暖化という言葉をあまり耳にしませんが、少なくともここ数十年のデータは、気温の上昇傾向を示しています。そうなると植物は、当然影響を受けます。しかし、暖かくなったからといって急に植物の種類が変わることはありません。それは、分布拡大には時間がかかりますし、植物相の変化も徐々に進行しているためです。ところが、シダ植物に関しては既に変化が現れているようです。

シダ植物は、花の咲く植物と違い、種子ではなく胞子を散布してなかまを増やします。胞子は多くの種子と違ってごく小さく、より広い範囲に散布されます。例えば寒冷な地域に生育できない種類の胞子も県内に散布されているはずです。しかし、気温が上昇すれば、県内も生育可能な地域になります。こうして胞子から配偶体ができ、やがてシダ植物の本体である胞子体ができます。このように近年の温暖な気候の影響で、県内に現れたとみられるシダ植物を紹介します。

ナガバノイタチシダ

本種は、当館友の会シダ植物研究グループと協働で行ってきた日高市のシダ植物調査で2005年に発見しました。この調査をとおして、分布状況がわかってきました。今のところ、日高市を含めた５市町に生育地があるため、本県に定着したと思われます。これまで太平洋側では、神奈川県や千葉県での生育が報告されていました。本種が含まれるオシダ属には似た種類が多いため、見落としていたのかも知れません。実は、日高町史　自然史編（1991）の調査の際、本種と思われる個体を見かけています。しかしまだ幼植物でしたので、まさか本種ではあるまいと片付けてしまいました。きちんと調べておけば良かったと反省しています。

ナガバノイタチシダ（日高市で撮影）

クルマシダ

本種は、葉長80cmにもなるチャセンシダ属のシダ植物です。2009年に日本シダの会の観察会で発見されました。近県では神奈川県内の２ヶ所から各１個体の生育が報告されています。本県でも１個体が生育するだけです。今のところ、これが北限のようです。この個体は、胞子を散布していますが、近くに幼植物は見られません。これから胞子で増え、定着していくのか注目しています。

クルマシダ（比企郡で撮影）

この他にも、今まで県内で生育が確認されていなかった暖地性のシダ植物が、いくつか見つかっています。また、本県では生育が知られていませんが、より北の県で採集記録がある種類もあります。そのような種もいずれ県内のどこかで発見できることでしょう。これからも調査を続けて埼玉県のシダ植物相の解明を進めていきたいと思います。

（うえだ　まさひろ・担当課長）

共催展「深谷の化石」－化石でたどる海と陸のドラマ－の開催

坂本　治・本間岳史・井上素子

深谷市（旧川本町）の荒川河床に露出する新第紀の地層は、豊富な海生動物化石と陸生植物化石を産し、秩父盆地とともに埼玉有数の化石産地として知られています。とりわけ、当地の地層とそこに含まれる化石は、太古の海から陸への環境の変遷を如実に物語るものとして、たいへん重要な意義を持っています。

本企画展は、埼玉県立自然の博物館と深谷市が連携し、深谷市民をはじめ多くのみなさまに化石をとおしてそのおいたちを紹介することを目的としています。会場と会期は、深谷市川本出土文化財管理センター展示室で、平成24年３月３日（土）～３月25日（日）の23日間です。

展示の概要は、以下のとおりです。

深谷市の地形・地質のあらまし

平成18年、深谷市、岡部町、川本町、花園町がひとつになり誕生した新「深谷市」は、埼玉県北西部に位置しています。市北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状地を形成する平坦な地形をしています。また、荒川河床は、比企層群土塩層・楊井層が分布し、海成層から陸生層へと連続した地層の変化を観察できる重要な場所です。

新第三紀の海　－菅沼の海生動物化石－

約1000万年前に海底に堆積した土塩層は、カルカロドン メガロドンなどのサメ類をはじめ、各種海生動物化石を多産します。深谷市菅沼一帯から産出した海生動物化石を中心に当時の生物相や古環境を紹介します。

新第三紀の森　－平方の植物化石－

約900万年前の楊井層には、河口付近の網状河川の堆積物がみられ、メタセコイアをはじめとする陸の植物化石が多産します。土塩層とその上に重なる楊井層は、まさに海から陸への変遷を語ってくれます。サイの頭骨化石の産出から、日本の島が陸続きであったこともうかがえます。

第四紀の古生物　－深谷にゾウがいた頃－

氷河時代とも称される第四紀は、長鼻類（ゾウ類）の進化をたどることができる時代です。

今から約50万年前、秩父山地から流出した荒川は、寄居町を扇頂として広大な扇状地を形づくりました。自然環境の変化に伴いこの扇状地は、河川に削られ、いくつもの河岸段丘を刻みました。約10万年前に生息したナウマンゾウの臼歯の化石が、この段丘堆積物中から発見されています。写真は、深谷市折之口で井戸の掘削中に発見された臼歯（右上顎第３大臼歯）です。

川本の巨大ザメとその復元

昭和61（1986）年に菅沼の荒川で発見された巨大ザメ、カルカロドン メガロドンは、同一個体の73本の歯群化石として知られ、埼玉県立自然の博物館でその復元が試みられ公開されています。発見から化石復元の過程を、模型や記録写真をもとに紹介します。

植松橋上空より北方をのぞむ

カルカロドン メガロドン

ナウマンゾウ臼歯

－関連普及事業－

- 平成24年３月10日（土）講演会
  演題１：地層は語る－海から陸への大地のドラマ－
  演題２：化石は語る－巨大ザメ　カルカロドン メガロドンの話－
  会場：深谷市川本文化センター研修室（定員：70名）
- 平成24年３月17日（土）地質観察会「太古の化石林をさぐる」深谷市本田平方の荒川（定員：30名）

（さかもと　おさむ・専門員兼学芸員
ほんま　たけし・専門員兼学芸員
いのうえ　もとこ・学芸員）

引越し雑感 －資料保存のはなし－

岩本克昌

現在、当館は開館以来30年余を経過したことにより、老朽化した電気、水道、空調等にかかる設備を一新するため、昨年９月から約１年間の休館中です。この間、寄居町にある施設に仮事務所を構えています。

館始まって以来の大規模な引っ越しを前に、職員は入念な準備を重ねてきました。そして、昨年９月から10月にかけての２か月間で無事終了しました。

現事務所は、旧県立寄居養護学校の閉校後、約７年間事務所として使用されることのなかった施設でした。この施設を博物館事務所として使用するメリットは、博物館の所在地である長瀞町から近い距離にあったことと、事務室、資料保管の適当なスペースが確保できることでした。

しかし、当初から学校施設として建てられたものであり、博物館事務所として使用するには、資料管理上いくつかのクリアーしなくてはならない問題点がありました。

① セキュリティーをどうするか。
② 温湿度管理をどうするか。
③ 重量物をどうするか、等々です。

博物館としての機能を兼ね備えた建物ではないので、当然なことばかりでした。

住んでみて驚いたことの一つに、テントウムシを始めとした小型昆虫類の多さでした。毎朝掃除をして取り除いても、翌朝にはまた何十匹もの闖入者たちがいました。この建物は小高い南斜面に建っているため、冬でも一日中陽光を浴びています。それゆえテントウムシの最適な集団越冬場所となっていたのです。侵入路となる恐れのある換気扇部分を目張りしてみましたが、あまり効果がありませんでした。どうやらアルミサッシのレールにある隙間部分からの侵入でした。事務室においては、テントウムシそのものが被害を与えることはありませんが、カメムシにはやや閉口しました。

資料の保存管理には、最近は総合的有害生物防除管理（Integrated Pest Management：IPM）の考え方が、職員の中に浸透しています。化学薬剤のみに頼らない、生物被害対策に努めています。しかし、今までとは比べものにならないほど厳しい環境に置かれているのも事実です。

陽光が降り注ぐ環境は、冬場はある意味快適に過ごせますが、裏を返せば夏場の高温高湿の問題があります。これは引っ越し当初からの懸念でした。もちろん、年間を通して空調の入る部屋も用意しましたが、設備上の問題などいろいろな制約から限られた部屋のみとなっています。

対策としては、太陽光の遮光を考えました。窓をベニヤ板で覆うことから始めました。紫外線を遮ることは可能ですが、温度の上昇を遮ることとともに、春から夏にかけて湿度の上昇も合わせて難しい問題といえます。温湿度の上昇、それに伴うムシ・カビの発生には頭を悩ませることになりそうです。

今回の引っ越しには、多くの皆さんの協力をいただきました。資料の中には、当館と同じ機構である川の博物館の協力を得て、分割収蔵したものもあります。管理という面においては、負担が大きくなりますが、一時的な対処としてはベストな選択と考えました。

昨年の東日本大震災で被災された各地では、全国からのボランティアの協力で破損、汚損された数多くの貴重な文化財がレスキューされつつあります。まだまだスタートの緒についたばかりではありますが、文化財資料の保存管理は一歩一歩前進していることも確かです。今回の引っ越しは、いかなる厳しい環境の中でも、博物館の使命の柱の一つである「県民共有の貴重な資料の適切な保存」について、今一度考える機会ともいえるのではないでしょうか。

もちろん、現状の対応策で完全な保存管理ができるとは保証されません。しかし、与えられた条件の中で館員が一丸となりベストを尽くしていくことが、我々の責務です。今秋のリフレッシュオープンの時には、皆様を笑顔でお迎えできるよう、着々と準備を進めてまいります。乞うご期待ください。

（いわもと　かつまさ・副館長）

今年度の教員研修の実施報告

向　井　　均

当館では、教育普及活動の一環として、毎年幼・小・中・高等学校の先生方を対象とした教員研修を数多く実施しています。内容は、岩畳の地質観察や昆虫類、植物の観察など、フィールドワークを中心とした研修です。今年度も、下表のように７講座（延べ12回）開催し、合計で310名の先生方に参加していただきました。以下に、今年度の教員研修の様子を報告いたします。

研　　修　　名	参加者数
授業に役立つ自然史体験講座	54名
みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修（６回実施）	158名
中学校（理科）初任者研修	51名
埼玉県幼稚園新規採用教員研修	15名
中学校（理科）５年経験者研修	23名
20年経験者社会体験研修	2名
高校５年経験者社会貢献体験研修	6名

表１　実施研修名と参加者数

今年度は、埼玉の地質や生物、河川環境などの多様な埼玉の自然や歴史について理解するための「みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修」を、新たに６回開催しました。この研修は、新規採用のすべての教員を対象に実施しました。理科が専門ではない先生方にとっては、普段経験することのない研修内容に新鮮味を感じたようで、たいへん積極的に、はつらつと取り組んでいました。

断層の観察（みどりと川と埼玉の歴史を学ぶ体験研修）

また、毎年実施している理科教員を対象とした研修では、前年度のアンケート調査の結果を参考に、教員の要望・要求が少しでも生かせるよう、内容の改善を図るなどして開催しました。

四十八沼の水生生物調査（中学校理科５年経験者研修）

「授業に役立つ自然史体験講座」は、当館の利用促進と教員の授業力向上を図ることを目的とした研修です。今年度は、東京都や群馬県からの申込みもあり、過去最高の参加者となりました。自然観察の技法の紹介やスキルアップのための指導案の提供など、先生方からたいへん好評でした。

オオムラサキの観察（授業に役立つ自然史体験講座）

研修に参加いただいた先生方からは、以下のような感想をいただきました。

○水辺再生100プランの意義を身をもって実感した。この経験を学校現場で生かしていきたい。

○子どもたちと同じ目線に立って、五感で感じることの大切さを、この研修を通して痛感した。

○「授業に役立つ」というタイトル通り、導入や指導案の提示など、今後に生かせる研修だった。

これからも、当館では先生方の要望や時代のニーズに応えた、多様な研修を開催していきます。

（むかい　ひとし・担当部長）

表紙の解説

共催展のチラシ・パンフレット

これまで実施した共催展では、原稿の執筆や写真の提供などで当館も協力しましたが、多くの場合共催した博物館がチラシやパンフレットを作成してくださいました。それぞれ工夫を凝らした、素晴らしいチラシやパンフレットになっています。ここでは15種類のチラシ・パンフレットの表紙をまとめてみました。

羽生市郷土資料館で2007年に実施した共催展「身近な外来生物たち」の準備の様子

熊谷市図書館で2009年に実施した共催展「自然科学展～“とぶ”生き物の世界～」の展示状況

催し物のお知らせ（3月～6月）　あなたも参加してみませんか

※埼玉県立自然の博物館は、快適な施設に向けた改修工事のため、平成23年9月1日～平成24年10月5日まで休館となります。この間、県内各地で共催展や観察会などを開催しますので、ふるってご参加ください。

シリーズ等	行事名	実施日	実施時間	対象（定員）、参加費、会場など
共催展	深谷の化石－化石でたどる海と陸のドラマ－	3月3日(土)～3月25日(日)	9:00～16:30	深谷市川本出土文化財管理センター
	武蔵野の雑木林と春の息吹	3月24日(土)～5月13日(日)	9:00～16:30	三芳町立歴史民俗資料館
	特定外来生物にご注意	3月17日(土)～6月10日(日)	9:00～16:30	春日部市郷土資料館
	空から見た埼玉	6月1日(金)～12月2日(日)	9:00～16:30	埼玉県立文書館
県立館連携事業	化石の模型作り	4月21日(土)	後日決定	歴史と民俗の博物館
	ストーンペインティング	6月16日(土)	後日決定	近代美術館
講演会	講演会「地層は語る－海から陸への大地のドラマ－」「化石は語る－巨大ザメ　カルカロドン メガロドンの話－」	3月10日(土)	13:30～16:00	深谷市川本公民館研修室 詳しくは深谷市生涯学習課へ TEL 048-572-9581
自然史講座	第2回研究発表会(おもに地学分野)	3月11日(日)	13:00～16:00	中学生以上（50名）※1　(参加費無料) 会場：嵐山史跡の博物館
観察会	早春の植物「ザゼンソウ」を訪ねる	3月4日(日)	10:30～15:00	小学生以上(30名)※1　(参加費500円) 秩父鉄道武州日野駅集合・解散
	太古の化石林をさぐる	3月17日(土)	9:30～13:00	詳しくは、深谷市生涯学習課へ TEL 048-572-9581
	サクラソウと春植物	4月28日(土)	10:00～15:00	どなたでも(30名)※1　(参加費300円) 会場：さいたま市秋ヶ瀬公園
	秩父ジオサイト探訪①「和銅黒谷」	5月12日(土)	10:00～15:00	小学生以上(30名)※1　(参加費300円) 秩父鉄道和銅黒谷駅集合・解散
	岩畳昆虫観察シリーズ①「キバネツノトンボに会おう」	5月19日(土)	10:00～12:00	どなたでも(30名)※1　(参加費300円) 月の石公園集合・岩畳解散
	三峰山の初夏の植物	6月2日(土)	11:00～15:00	どなたでも(30名)※1　(参加費300円) 三峰ビジターセンター集合・解散

●※1は、事前申込です。実施2週間前の火曜日までの受付で、定員を超えたときは抽選とします。
「往復はがき」か「WEBサイト登録フォーム」または「電子申請」で、お申し込みください。
●詳しいことは博物館にお問い合わせください。

埼玉県立自然の博物館ニュースレター　瀞　第18号　平成24年2月10日発行
編集発行　埼玉県立自然の博物館　〒369-1305　埼玉県秩父郡長瀞町長瀞1417-1
TEL　0494-66-0404（総務担当）　0407（学芸担当）　FAX　0494-69-1002
URL　http://www.shizen.spec.ed.jp/　E-mail　shizen@po.kumagaya.or.jp

再生紙を使用しています